

救急受入患者の状況(平成20年 - 22年の比較)

受入患者総数

	救急告示病院	受入患者	1病院当たり患者数	1日当たり患者数
平成20年	60	16,362	273	545
平成21年	59	21,205	359	707
平成22年	59	14,647	248	488

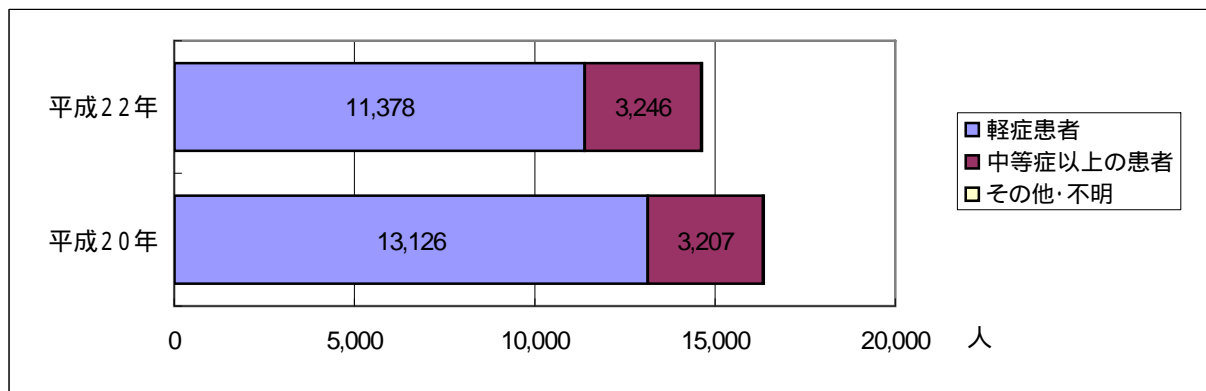
平成20年から22年の3年間の救急患者数を比較すると、平成21年はインフルエンザの影響で増加したものの、平成20年と比較すると、平成22年では減少している。

以下、インフルエンザの影響があった平成21年を除き、平成20年と平成22年を比較

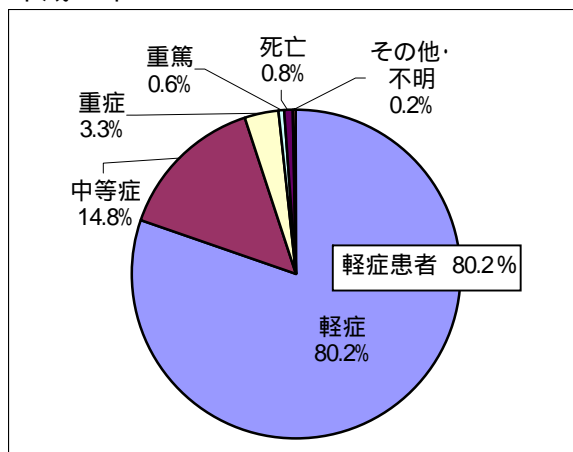
症状の程度別患者数

	特に軽症	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	その他・不明	計
平成20年	-	13,126	2,418	546	106	137	29	16,362
平成22年	4,744	6,634	2,462	569	99	116	23	14,647
増減		1,748	44	23	7	21	6	1,715

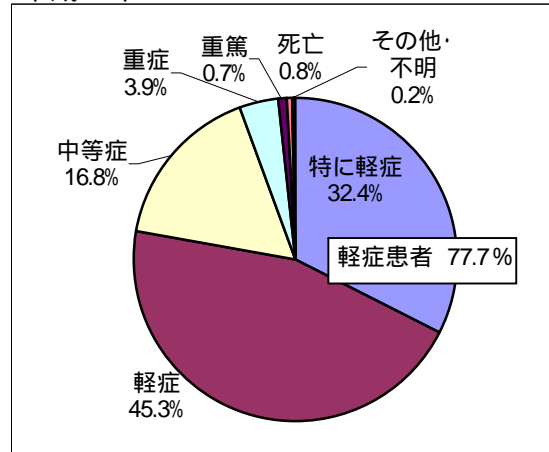
- 〔 ・軽症患者: 特に軽症+軽症 〕
- 〔 ・中等症以上の患者: 中等症+重症+重篤+死亡 〕



平成20年



平成22年

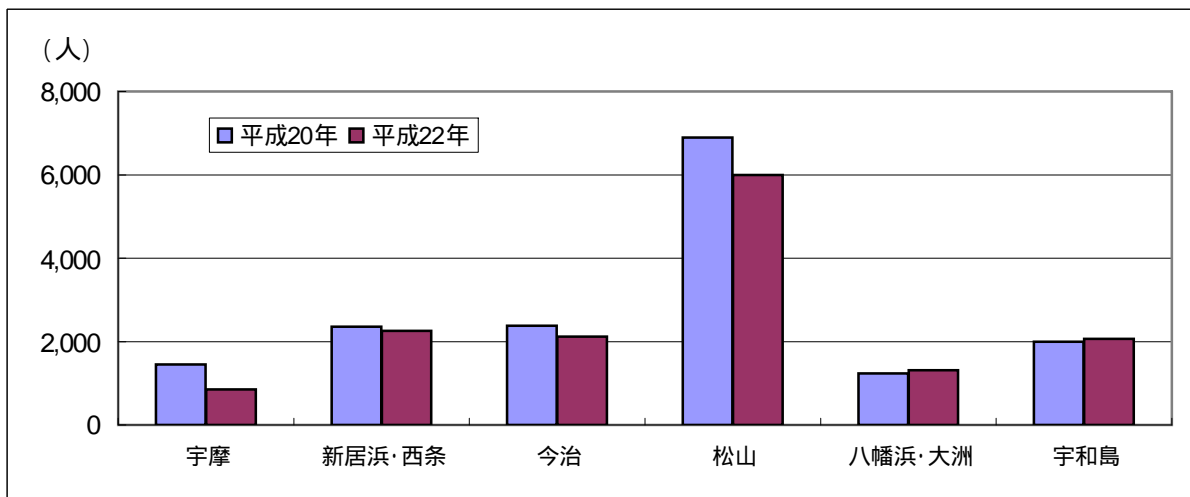


平成20年と比較すると、平成22年では救急患者数が10.5%減少(1,715人)し、軽症患者も13.3%減少(1,748人)している。また軽症患者が占める割合が80.2%から77.7%へ2.5ポイント減少した。

1. 医療圏別患者数

(1) 医療圏別患者数

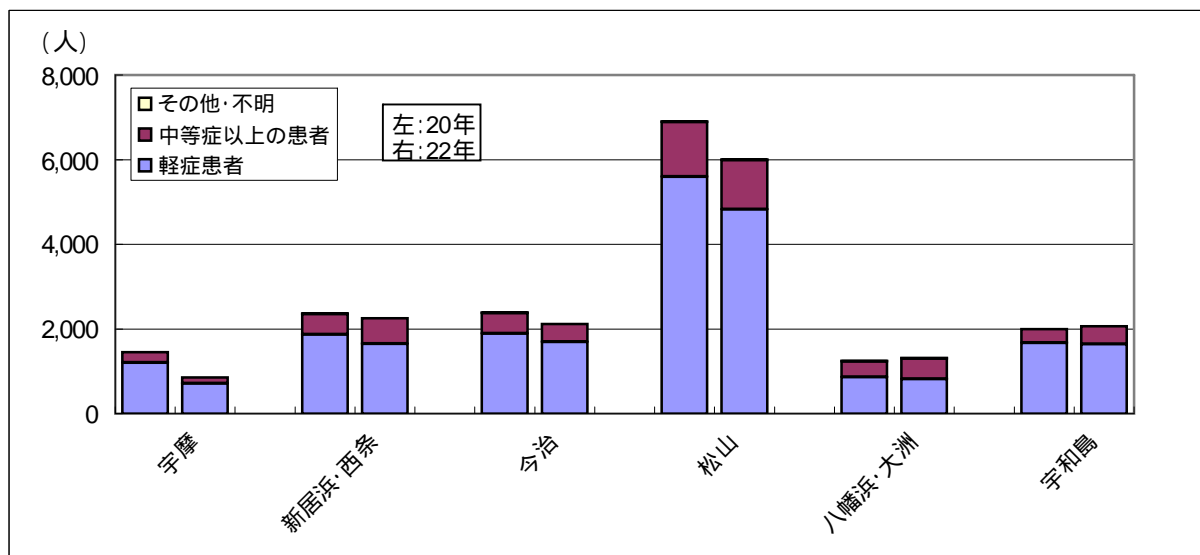
	宇摩	新居浜・西条	今治	松山	八幡浜・大洲	宇和島	計
平成20年	1,459	2,368	2,388	6,900	1,244	2,003	16,362
平成22年	861	2,262	2,128	6,002	1,319	2,075	14,647
増減	598	106	260	898	75	72	1,715



医療圏別では、6医療圏のうち4医療圏で救急患者が減少しているが、八幡浜・大洲圏域と宇和島圏域の2医療圏では若干ではあるが増加している。

<増減率> 宇摩 41%、新居浜・西条 4.5%、今治 10.9%、松山 13%、
八幡浜・大洲6%、宇和島3.6%

(2) 医療圏別・症状の程度別患者数



軽症患者数を比較すると、6医療圏すべてで減少している。

<増減率> 宇摩 40.3%、新居浜・西条 11.8%、今治 10.5%、松山 13.7%、
八幡浜・大洲 5.1%、宇和島 1.6%

軽症患者の占める割合は、4医療圏で減少し、2医療圏で増加している。

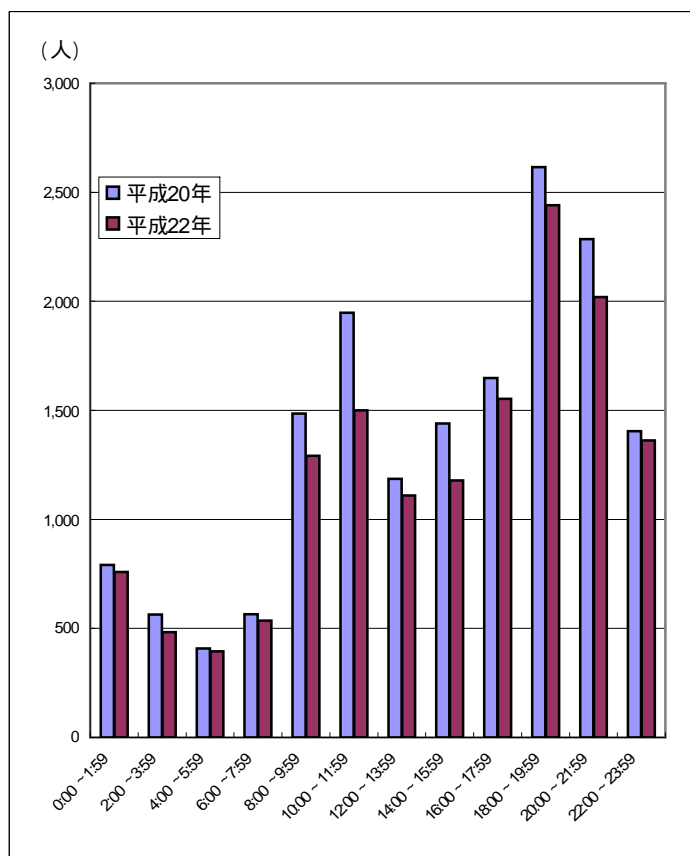
・宇摩	83.7% (0.9ポイント)	・新居浜・西条	73.1% (6.1ポイント)
・今治	79.8% (0.3ポイント)	・松山	80.5% (0.7ポイント)
・八幡浜・大洲	62.5% (7.9ポイント)	・宇和島	79.4% (4.2ポイント)

なお、八幡浜・大洲圏域、宇和島圏域では、軽症患者の減少数以上に中等症以上の患者数が増加したため、救急患者数が増加した結果となっている。

2. 時間帯別患者数

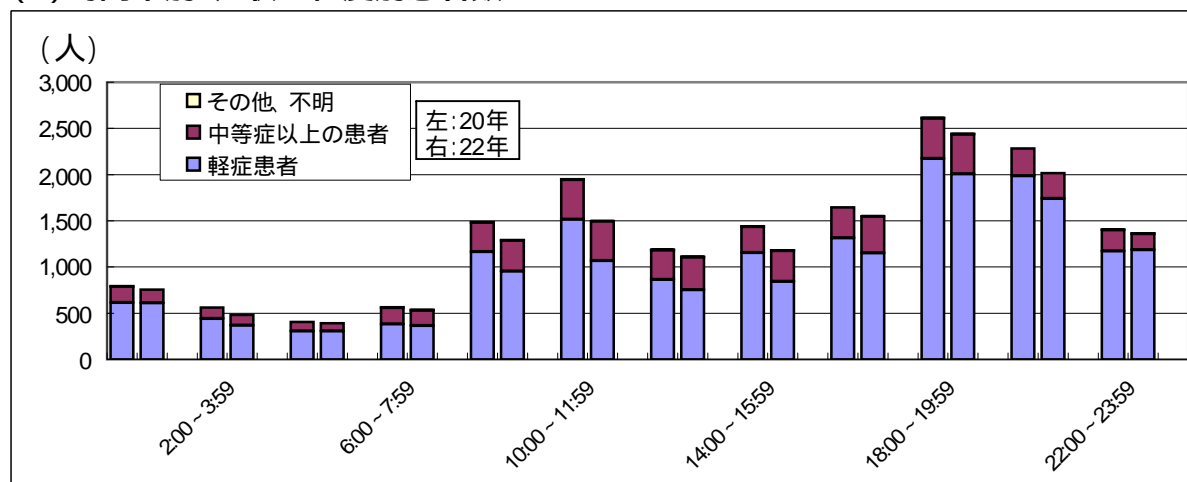
(1) 時間帯別患者数

	平成20年	平成22年	増減
0:00 ~ 1:59	792	760	32
2:00 ~ 3:59	565	485	80
4:00 ~ 5:59	409	396	13
6:00 ~ 7:59	566	537	29
8:00 ~ 9:59	1,487	1,293	194
10:00 ~ 11:59	1,949	1,502	447
12:00 ~ 13:59	1,187	1,111	76
14:00 ~ 15:59	1,442	1,180	262
16:00 ~ 17:59	1,650	1,554	96
18:00 ~ 19:59	2,617	2,443	174
20:00 ~ 21:59	2,287	2,021	266
22:00 ~ 23:59	1,406	1,364	42
不明	5	1	4
計	16,362	14,647	1,715



時間帯別に見ると、すべての時間帯において救急患者が減少している。減少率は10:00～11:59が22.9%、次いで14:00～15:59が18.2%と、5つの時間帯で10%以上となっている。

(2) 時間帯別・症状の程度別患者数

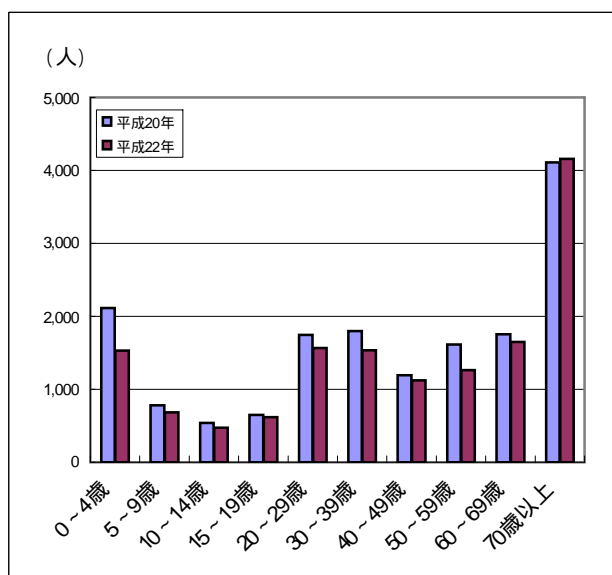


軽症患者数を比較しても、すべての時間帯において減少しているほか、軽症患者の占める割合も、同等または減少している状況となっている。

3. 年齢階層別患者数

(1) 年齢階層別患者数

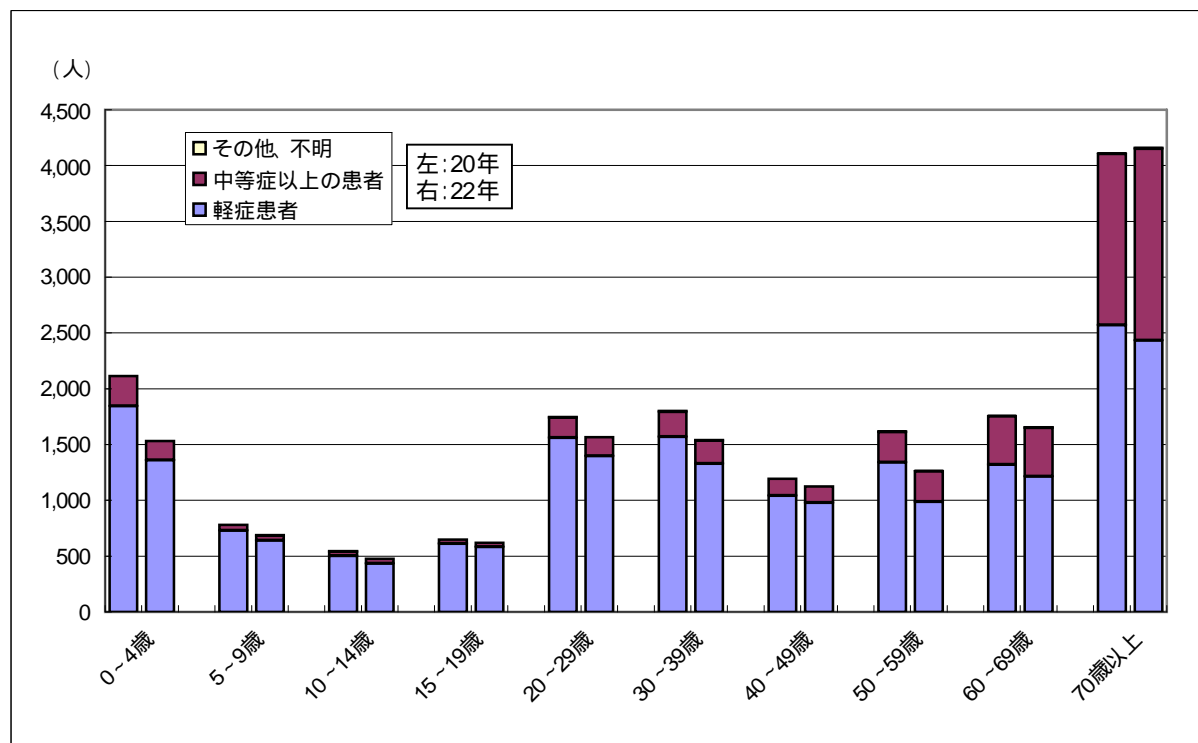
	平成20年	平成22年	増減
0～4歳	2,117	1,534	583
5～9歳	783	688	95
10～14歳	546	480	66
15～19歳	652	623	29
20～29歳	1,748	1,568	180
30～39歳	1,803	1,539	264
40～49歳	1,197	1,128	69
50～59歳	1,619	1,267	352
60～69歳	1,760	1,655	105
70歳以上	4,112	4,162	50
不明	25	3	22
計	16,362	14,647	1,715



「70歳以上」の年齢階層を除く、全ての年齢階層で救急患者が減少。減少率は「0～4歳」が27.5%、「50～59歳」が21.7%と大幅に減少しているほか、コンビニ受診が懸念される「20～29歳」、「30～39歳」の勤労者層においても10%以上の減少が見られる。

小児の患者数の減少は、小児救急医療電話相談（#8000）の利用者の増加も、要因と考えられる。（1日平均利用件数：20年11月 4.5件、22年11月 11.7件 2.6倍）

(2) 年齢階層別・症状の程度別患者数

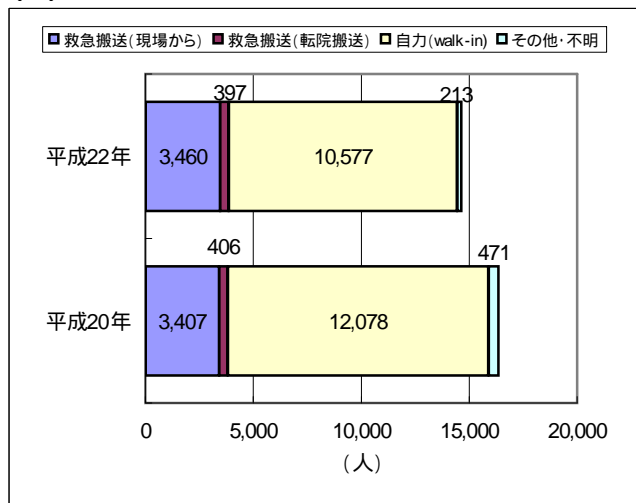


すべての年齢階層で、軽症患者が減少しており、「50～59歳」では26.3%減（353人）、「0～4歳」では26.2%減（484人）と減少率が高い。

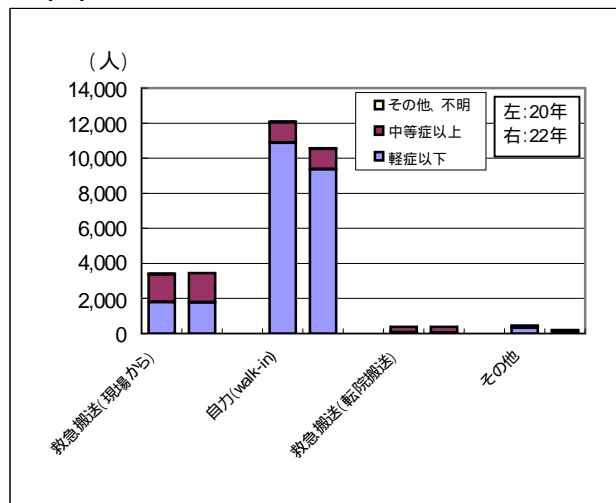
唯一患者数が増加した「70歳以上」は、軽症患者の減少数以上に中等症以上の患者数が増加したため、救急患者数が増加した結果となっている。

4. 来院形態別患者数

(1) 来院形態別患者数



(2) 来院形態別・症状の程度別患者数



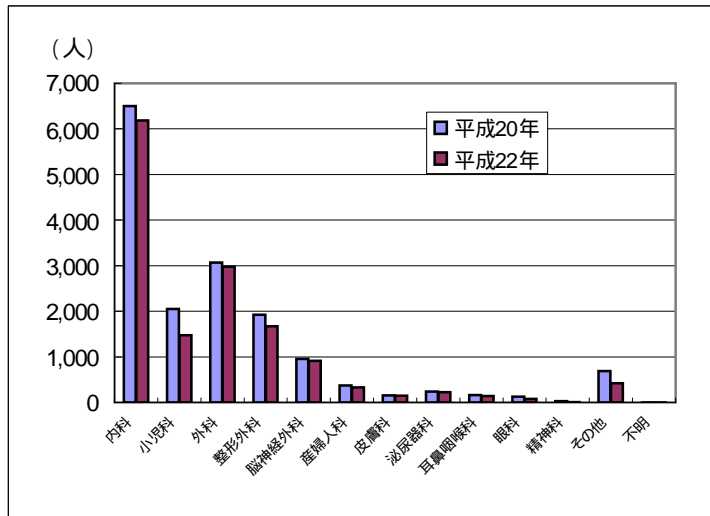
自家用車等を利用し自力で来院する(walk-in)患者が12.4%減少(1,501人)したため、walk-inの患者が占める割合が、73.8%から72.2%に(1.6ポイント)減少した。

また、すべての来院形態において軽症患者は減少しているが、特にwalk-in患者に占める軽症患者数の減少率が13.9%(1,513人)と高い。

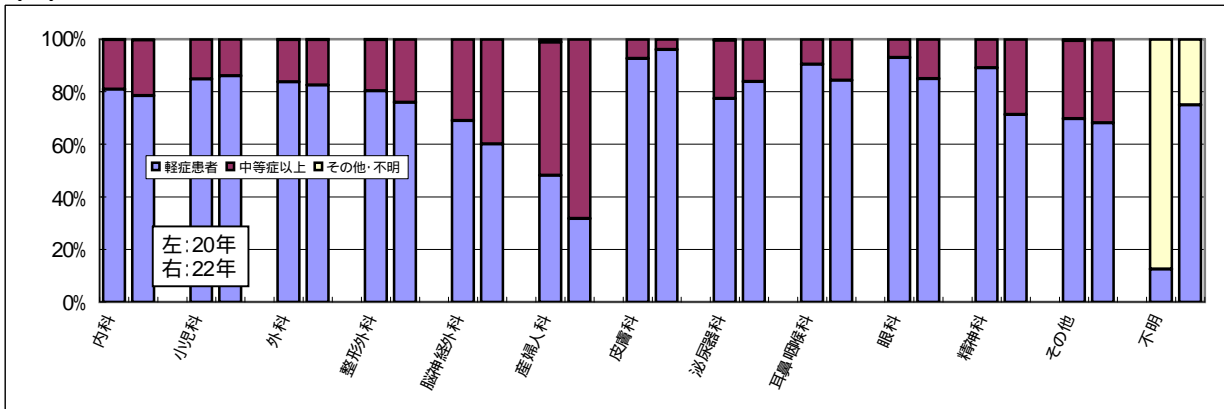
5. 主な受診科別患者数

(1) 主な受診科別患者数

診療科	平成20年	平成22年	増減
内科	6,507	6,190	317
小児科	2,058	1,478	580
外科	3,072	2,982	90
整形外科	1,934	1,675	259
脳神経外科	963	922	41
産婦人科	379	337	42
皮膚科	163	154	9
泌尿器科	249	231	18
耳鼻咽喉科	168	148	20
眼科	130	87	43
精神科	37	14	23
その他	694	425	269
不明	8	4	4
計	16,362	14,647	1,715



(2) 主な受診科別・症状の程度別患者比率



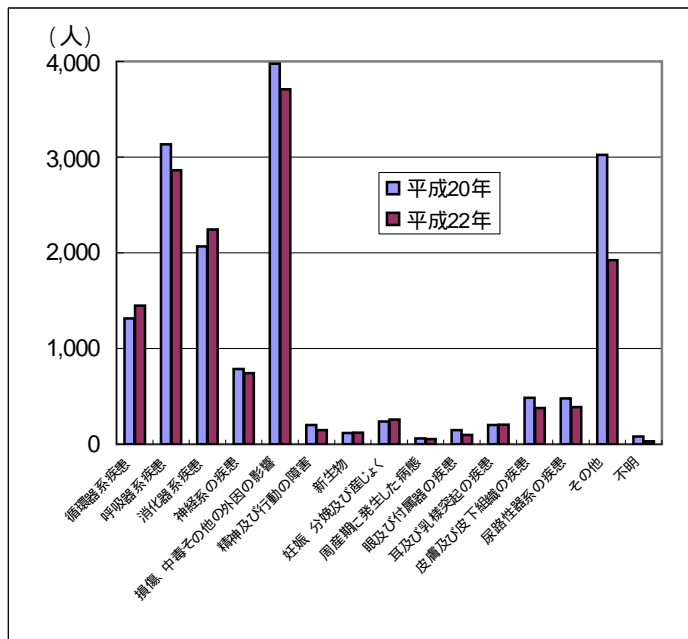
すべての受診科において患者数が減少しているが、小児科の減少率が28.2%(580人)と特徴的である。

また、受診科によって軽症患者の構成比が大きく変わり、産婦人科においては中等症以上の患者が68.2%を占めている。

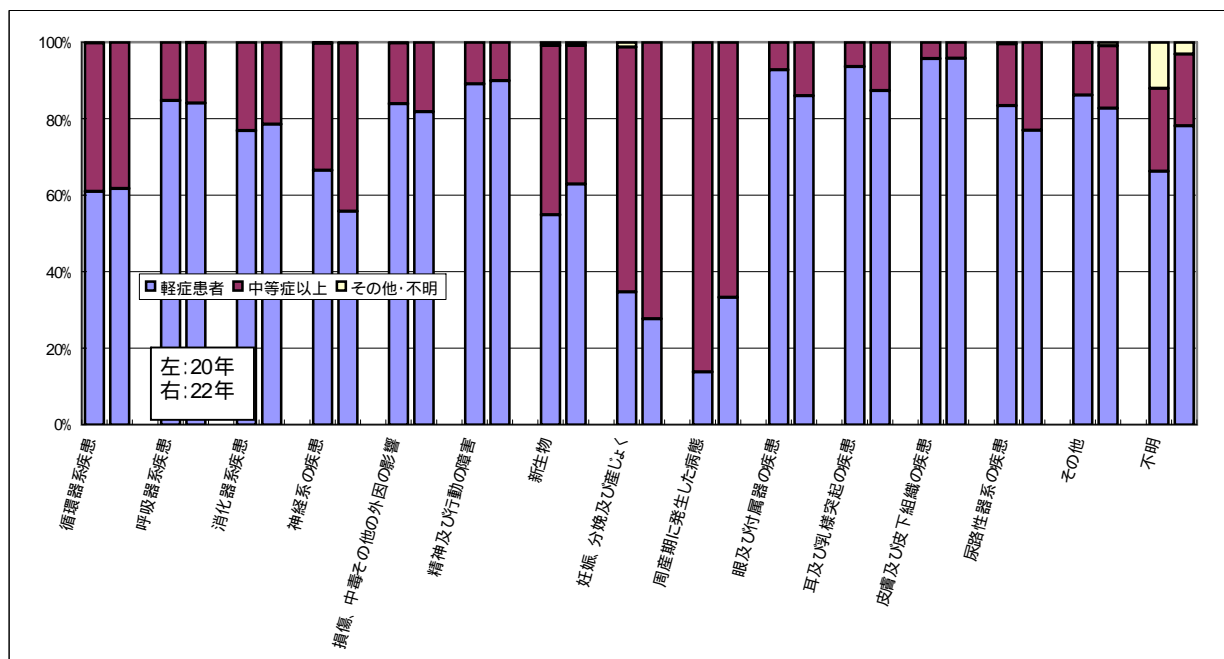
6. 主な傷病別患者数

(1) 主な傷病別患者数

	平成20年	平成22年	増減
循環器系疾患	1,319	1,450	131
呼吸器系疾患	3,136	2,867	269
消化器系疾患	2,069	2,248	179
神経系の疾患	788	745	43
損傷、中毒その他の外因の影響	3,981	3,711	270
精神及び行動の障害	203	149	54
新生物	122	124	2
妊娠、分娩及び産じょく	242	260	18
周産期に発生した病態	65	57	8
眼及び付属器の疾患	152	100	52
耳及び乳様突起の疾患	204	206	2
皮膚及び皮下組織の疾患	488	380	108
泌尿器系の疾患	483	391	92
その他	3,027	1,927	1,100
不明	83	32	51
計	16,362	14,647	1,715



(2) 主な傷病別・症状の程度別患者比率



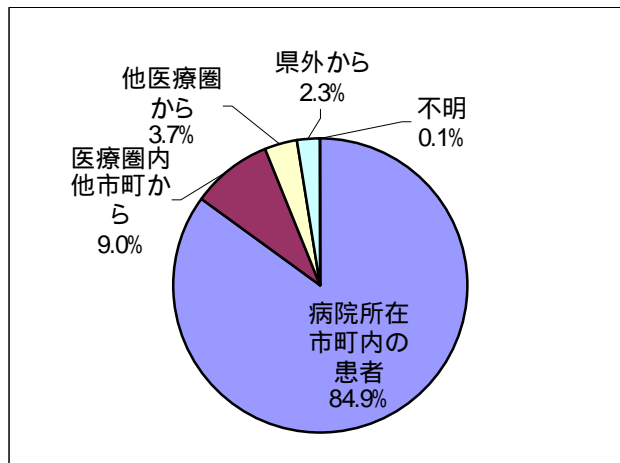
「循環器系」、「消化器系」等5項目で増加しているものの、増加率は10%未満であり、逆に「眼及び付属器」、「精神系」、「妊娠、分娩及び産じょく」の項目においては20%以上の減少率となっている。

また、傷病によって軽症患者の構成比が大きく変わり、妊婦や出産に関する傷病においては、中等症以上の患者が70%前後を占めている。

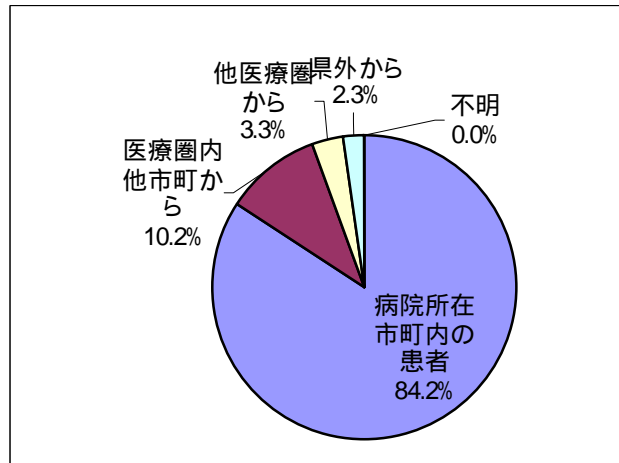
7. 居住地域別の患者比率

	病院所在市町内の患者	医療圏内他市町から	他医療圏から	県外から	不明	計
平成20年	13,889	1,474	604	373	22	16,362
平成22年	12,332	1,487	488	335	5	14,647
増減	1,557	13	116	38	17	1,715

平成20年



平成22年



医療圏内に在住の患者が受診する割合が93.9%から94.4%に増加しており、圏域外の病院への流出が減少している。

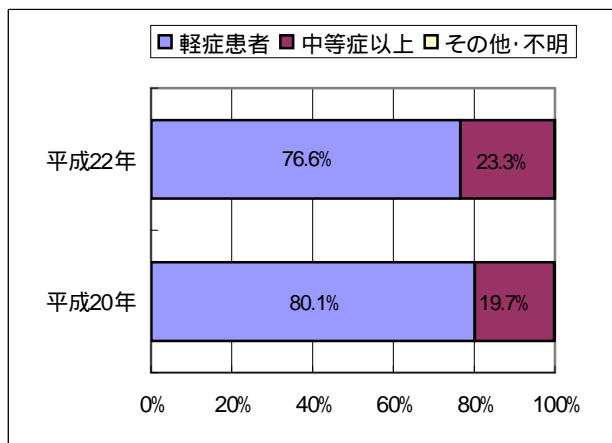
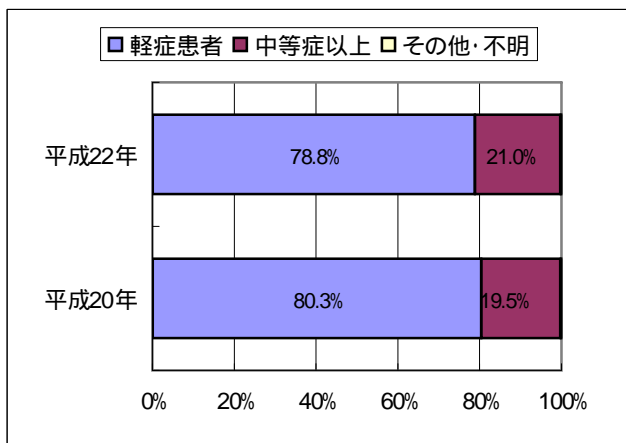
8. 男女別の患者比率

男性

	平成20年	平成22年	増減
軽症患者	6,799	5,795	1,004
中等症以上	1,647	1,546	101
その他・不明	17	16	1
計	8,463	7,357	1,106

女性

	平成20年	平成22年	増減
軽症患者	6,325	5,583	742
中等症以上	1,559	1,700	141
その他・不明	10	7	3
計	7,894	7,290	604



救急患者数は男性13.1%(1,106人)、女性7.7%(604人)の減少となっているが、軽症患者の占める割合では、男性80.3%から78.8%(1.5)、女性80.1%から76.6%(3.5)と、女性の減少率が高い。